大火のあと、江戸は焼け死んだ人々を葬って寺を建て、ロンドンは記念の柱と断食の日を設けた

明暦三年（1657年）正月十八日、本郷丸山の本妙寺から火が出ました。翌十九日にも別の火が出て、江戸城の本丸・二の丸・三の丸まで焼けました。この江戸の大火のあと、焼け死んだ人々は牛島に合葬され、寺が建てられました。

1666年のロンドン大火のあとには、大火を記念する柱が建てられ、断食と悔い改めの日が法で定められました。

大火のあとに何を残したかが、二つの都市で違っていたのです。

On the eighteenth day of the first month of the third year of Meireki, 1657, a fire broke out from the temple Honmyōji at Maruyama in Hongō. The next day, the nineteenth, another fire broke out, and even the main, second and third enclosures of Edo Castle burned. After this great fire of Edo, those who had died in the flames were buried together at Ushijima, and a temple was built.

After the Great Fire of London in 1666, a column was built to commemorate the fire, and a day of fasting and humiliation was fixed by law.

What the two cities left behind after their great fires was different.

この大火で焼け死んだ人の数は、記録によって大きく違います。『千登勢の満津』によると、正月二十四日、台徳院様の御霊屋（霊をまつる建物）へ、代参に出た人がいました。代参とは、神社や仏閣に行けない人に代わって、別の人が参拝することです。台徳院は、二代将軍の徳川秀忠の院号（死後の名のうち、院の字を含むもの）です。その人は途中、京橋・中橋の通りで、焼け死んだ人々が縦横に並び、焦げただれているのを目にします。たいへん不憫に思い、その日のうちに江戸城に出向いて、公儀（幕府）の費用で死骸を集めて葬るよう相談しました。そして、そのとおり命じられました。この人は保科正之だと、『東京市史稿』の編者の注にあります。焼け死んだ人々は牛島に合葬され、寺が建てられました。回向院です。

一方、九年後の1666年、ロンドンでも大火が起きました。大火のあと、『ロンドン再建法』は、火事の始まった場所の近くに柱を建てることを定めました。九月二日を、毎年、公の断食と悔い改めの日とすることも定めています。火元の近くには、この大火を記念する柱、The Monument が、1671年から1677年にかけて建てられました。 1668年の九月二日、その断食の日は厳しく守られた、とピープスの日記に記されています。

江戸は、焼け死んだ人々を合葬し、寺を建てました。ロンドンは、大火を記念する柱を建て、断食と悔い改めの日を定めました。大火のあとに残したものが、二つの都市で違っていたのです。

The number of those who died in this fire differs widely from record to record. According to the Chitose no Matsu, on the twenty-fourth day of the first month, a man went to the Otamaya (the building where a spirit is enshrined) of Taitoku-in on a daisan. A daisan is a visit of worship to a shrine or temple made by one person in place of another who cannot go. Taitoku-in was the posthumous name of Tokugawa Hidetada, the second shogun. On the way, along the streets of Kyōbashi and Nakabashi, he saw the dead lying everywhere, scorched and burned. Deeply pitying them, he went to Edo Castle that same day and proposed that the bodies be gathered and buried at the expense of the kōgi (the shogunate). And this was ordered. According to a note by the editors of the Tōkyō Shishikō, this man was Hoshina Masayuki. The dead were buried together at Ushijima, and a temple was built there: Ekōin.

Meanwhile, nine years later, in 1666, a great fire broke out in London too. After the great fire, the Act for rebuilding the City of London ordered that a pillar of brass or stone be set up on or near the place where the fire began. It also made the second of September a yearly day of public fasting and humiliation. Near the place where the fire began, a column to commemorate the great fire, the Monument, was built between 1671 and 1677. On the second of September 1668, Pepys records in his diary, the fast day was strictly kept.

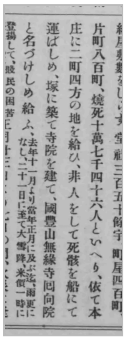
Edo buried its dead together and built a temple; London built a column to commemorate the fire and fixed a day of fasting and humiliation. What the two cities left behind after their great fires was different.

れきしねた ガイドネタ帳 | Rekishi-Neta Guide Notes | © 2026 Rekishi-Neta

S3 イギリスから来たお客様　回向院（両国）

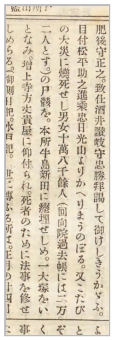
お客様用

記録の言葉



斎藤月岑編・朝倉亀三校『増訂武江年表』（国書刊行会、大正元年）

> 焼死十萬七千四十六人といへり　p.40



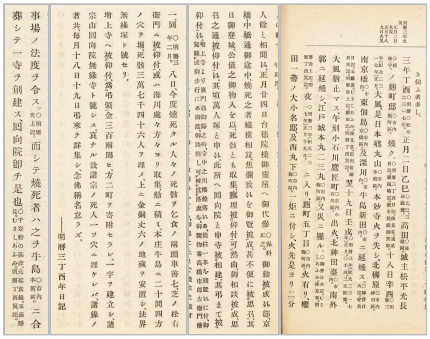
成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第3編』（経済雑誌社、明治37年）

> 又こたびの大災に焼死せし男女十萬八千餘人（回向院過去帳には二万二人とす。）の尸骸を。本所牛島新田に瘞埋せしめ。　p.218



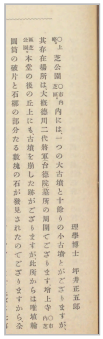
成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第1編』（経済雑誌社、明治37年）

> 台徳院殿御諱は秀忠。東照宮第三の御子。　p.366



東京市編『東京市史稿 変災篇第四』（東京市、大正6年）

> 而シテ焼死者ハ之ヲ牛島…ニ合葬シテ一寺ヲ創建ス、回向院即チ是也　p.114
>
> 本庄牛島ニ二十間四方ノ穴ヲ堀、死骸三萬七千四十六人ヲ埋メ　p.230
>
> 正月廿四日台徳院様御靈屋へ御代參…御勤被成候節、京橋・中橋通御途中、焼死之者縦横相竝、焦爛致候を御覧被成、甚不便に被思召、其日御登城、公儀之御物入を以、死骸とも取集瘞埋被仰付可然由、御相談被成、思召之通被仰付候。其頃萬人塚と申候。此所へ回向院と申寺被相建、其弔まて被仰付候。　p.226
>
> 三年丁酉／十八日辛酉／大風、是日本郷丸山／本妙寺火ヲ失シ、北柳原／南京橋／東佃島／及深川／牛島新田／ニ延焼ス。／翌十九日壬戌／大風猶止マス、午刻小石川鷹匠町／出火、北神田臺／南外郭ニ延焼シ、江戸城本丸ニ三丸／又災ニ罹ル。　p.112



東京市編『東京市史稿 市街篇第1』（東京市、大正3年）

> 芝公園／内には、一つの大古墳と十餘りの小古墳とがござりますが、其存在場所は、大概徳川二代將軍(台徳院)墓所の周圍でござります。　p.295

れきしねた ガイドネタ帳 | Rekishi-Neta Guide Notes | © 2026 Rekishi-Neta

S3 イギリスから来たお客様　回向院（両国）

ガイド用 ／ お客様にはお見せしません

大火のあと、江戸は焼け死んだ人々を葬って寺を建て、ロンドンは記念の柱と断食の日を設けた

⚠ 機微（#125）：災害（明暦の大火）。死者を扱う

⚠ 機微（#131）：災害の死者（明暦の大火の焼死者を葬った寺）を扱う。数は記録の言い方のまま扱う。記録の言葉に身分の呼び名（「非人（ひにん）」「乞食（こじき）」）が出る。読み上げる文では使わず、引用として紙に出すときは記録の言葉であることが分かる形にする

読み上げる文（お客様用の紙と同じもの）

明暦三年（1657年）正月十八日、本郷丸山の本妙寺から火が出ました。翌十九日にも別の火が出て、江戸城の本丸・二の丸・三の丸まで焼けました。この江戸の大火のあと、焼け死んだ人々は牛島に合葬され、寺が建てられました。

1666年のロンドン大火のあとには、大火を記念する柱が建てられ、断食と悔い改めの日が法で定められました。

大火のあとに何を残したかが、二つの都市で違っていたのです。

On the eighteenth day of the first month of the third year of Meireki, 1657, a fire broke out from the temple Honmyōji at Maruyama in Hongō. The next day, the nineteenth, another fire broke out, and even the main, second and third enclosures of Edo Castle burned. After this great fire of Edo, those who had died in the flames were buried together at Ushijima, and a temple was built.

After the Great Fire of London in 1666, a column was built to commemorate the fire, and a day of fasting and humiliation was fixed by law.

What the two cities left behind after their great fires was different.

この大火で焼け死んだ人の数は、記録によって大きく違います。『千登勢の満津』によると、正月二十四日、台徳院様の御霊屋（霊をまつる建物）へ、代参に出た人がいました。代参とは、神社や仏閣に行けない人に代わって、別の人が参拝することです。台徳院は、二代将軍の徳川秀忠の院号（死後の名のうち、院の字を含むもの）です。その人は途中、京橋・中橋の通りで、焼け死んだ人々が縦横に並び、焦げただれているのを目にします。たいへん不憫に思い、その日のうちに江戸城に出向いて、公儀（幕府）の費用で死骸を集めて葬るよう相談しました。そして、そのとおり命じられました。この人は保科正之だと、『東京市史稿』の編者の注にあります。焼け死んだ人々は牛島に合葬され、寺が建てられました。回向院です。

一方、九年後の1666年、ロンドンでも大火が起きました。大火のあと、『ロンドン再建法』は、火事の始まった場所の近くに柱を建てることを定めました。九月二日を、毎年、公の断食と悔い改めの日とすることも定めています。火元の近くには、この大火を記念する柱、The Monument が、1671年から1677年にかけて建てられました。 1668年の九月二日、その断食の日は厳しく守られた、とピープスの日記に記されています。

江戸は、焼け死んだ人々を合葬し、寺を建てました。ロンドンは、大火を記念する柱を建て、断食と悔い改めの日を定めました。大火のあとに残したものが、二つの都市で違っていたのです。

The number of those who died in this fire differs widely from record to record. According to the Chitose no Matsu, on the twenty-fourth day of the first month, a man went to the Otamaya (the building where a spirit is enshrined) of Taitoku-in on a daisan. A daisan is a visit of worship to a shrine or temple made by one person in place of another who cannot go. Taitoku-in was the posthumous name of Tokugawa Hidetada, the second shogun. On the way, along the streets of Kyōbashi and Nakabashi, he saw the dead lying everywhere, scorched and burned. Deeply pitying them, he went to Edo Castle that same day and proposed that the bodies be gathered and buried at the expense of the kōgi (the shogunate). And this was ordered. According to a note by the editors of the Tōkyō Shishikō, this man was Hoshina Masayuki. The dead were buried together at Ushijima, and a temple was built there: Ekōin.

Meanwhile, nine years later, in 1666, a great fire broke out in London too. After the great fire, the Act for rebuilding the City of London ordered that a pillar of brass or stone be set up on or near the place where the fire began. It also made the second of September a yearly day of public fasting and humiliation. Near the place where the fire began, a column to commemorate the great fire, the Monument, was built between 1671 and 1677. On the second of September 1668, Pepys records in his diary, the fast day was strictly kept.

Edo buried its dead together and built a temple; London built a column to commemorate the fire and fixed a day of fasting and humiliation. What the two cities left behind after their great fires was different.

お客様にとっての発見

明暦三年の江戸の大火のあと、江戸は焼け死んだ人を合葬する寺を建て、1666年のロンドン大火のあと、ロンドンは大火を記念する柱を建て、断食の日を法で定めています。イギリスのお客様は、自分の国の大火のあとに残したものを、江戸が残したものと並べて聞くことになります。

れきしねた ガイドネタ帳 | Rekishi-Neta Guide Notes | © 2026 Rekishi-Neta

S3 イギリスから来たお客様　回向院（両国）

ガイド用 ／ お客様にはお見せしません

語り方のコツ

- **「何人くらい亡くなったのか」と尋ねられたら**

> 「記録によって大きく違います。『徳川実紀』によると焼け死んだ男女は十万八千余人、『増訂武江年表』によると焼死は十万七千四十六人と伝えられています。一方、『徳川実紀』の注によると、回向院（えこういん）の過去帳では二万二人とされています」とお答えください。

どこまで断定してよいか

断定してよい

明暦三年の火事について

- 明暦三年正月十八日、大風の日に本郷丸山の本妙寺から火が出た（東京市編『東京市史稿 変災篇第四』）
- 翌十九日、小石川鷹匠町からも出火し、江戸城の本丸・二の丸・三の丸も焼けた（同）

焼け死んだ人々を葬ったことについて

- 大火の焼死者は牛島に合葬され、そこに回向院が建てられた（東京市編『東京市史稿 変災篇第四』）
- 千登勢の満津は、台徳院の御霊屋へ代参した者が、途中の京橋・中橋通で焼け死んだ人々が縦横に並ぶのを見たと書く（同）
- 同じ書は、公儀の費用で死骸を取り集めて埋めるよう命じられ、万人塚に回向院が建てられたと書く（同）

ロンドン大火について

- ロンドン再建法は、火事の始まった場所の上か近くに、真鍮か石の柱を建てると定めた（John Raithby 編『Statutes of the Realm: Volume 5, 1625-80』）
- 同じ法は、九月二日を毎年、市の公の断食と悔い改めの日とした（同）
- The Monument は1671年から77年に Wren によって建てられた（Historic England の登録記録）
- ロンドン博物館の解説は、1667年2月の再建法が「column or pillar」を建てると定めたことを引く（ロンドン博物館の解説）
- ピープスは1668年9月2日の日記に、ロンドンが焼けたことのための断食の日で、厳しく守られたと書いた（ピープスの日記（Project Gutenberg））

台徳院について

- 台徳院殿の御諱は秀忠で、東照宮の第三の御子（成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第1編』）
- 坪井正五郎の文は、芝公園の古墳の場所を「徳川二代將軍(台徳院)墓所の周圍」とする（東京市編『東京市史稿 市街篇第1』）

「諸説ありますが」と置く

- **明暦の大火で死んだ人の数:** 徳川実紀は、焼け死んだ男女を十万八千余人とし、割注に回向院の過去帳では二万二人とする（成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第3編』）
- **明暦の大火で死んだ人の数:** 増訂武江年表は、焼死を十万七千四十六人とする（斎藤月岑編・朝倉亀三校『増訂武江年表』）

★言わない

- 江戸とロンドンのどちらかが、もう一方を手本にしたと言わないでください
- 死んだ人の数を比べて、どちらの大火がひどかったと言わないでください

この物語のもとになった小ネタ

- #125　明暦の大火で焼けた江戸城の天守は、建て直されなかった
- #131　明暦の大火で焼け死んだ人々を葬った塚に、回向院が建てられた

番号は小ネタの紙の番号です。詳しくは、それぞれの小ネタの紙で。

記録の言葉

ほか引用 9 件は紙に載せていません（2ページに収めるため）

原本の画像を 8 枚載せていません（2ページに収めるため）

斎藤月岑編・朝倉亀三校『増訂武江年表』（国書刊行会、大正元年） 一次

> 燒死十萬七千四十六人といへり　p.40

成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第3編』（経済雑誌社、明治37年） 一次

> 又こたびの大災に燒死せし男女十萬八千餘人（回向院過去帳には二万二人とす。）の尸骸を。本所牛島新田に瘞埋せしめ。　p.218

成島司直等編・経済雑誌社校『徳川実紀 第1編』（経済雑誌社、明治37年） 一次

> 台德院殿御諱は秀忠。東照宮第三の御子。　p.366

東京市編『東京市史稿 変災篇第四』（東京市、大正6年）

> 而シテ燒死者ハ之ヲ牛島…ニ合葬シテ一寺ヲ創建ス、回向院即チ是也　p.114

 © 2026 Rekishi-Neta